

Oracle Developer for HP-UX

リリース・ノート

R6i Patch7

2001 年 11 月

部品番号: J05445-01

このドキュメントには、リリースの時点で判明している情報をすべて掲載しています。リリース後に明らかになった情報は、通常のカスタマ・サポートから入手できます。

ORACLE®

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Oracle Forms Developer、Oracle9iAS Forms Services、Oracle Reports Developer、Oracle9iAS Reports Services、Oracle9i Application Server は Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

Copyright © 2001, Oracle Corporation
All Right Reserved

目次

第 1 章 Oracle Developer for HP-UX R6i Patch7 の適用	4
パッチの適用に関して	4
HP-UX 上の OS パッチの要件	4
CD の内容	4
インストールに関して	5
アンインストール方法	7
このパッチで修正される不具合	7
第 2 章 Oracle Forms Developer and Oracle9iAS Forms Services R6i	8
対応するデータベース	8
Forms6i Patch7 新機能	8
ユーザー/パスワードの非表示	8
拡張されたシングル・サインオン (SSO) サポート	8
Forms6i Patch6 新機能	9
拡張されたネットワーク・レジリエンス	9
Listener サブレットを使用した、HTTPS モード内での JInitiator の Forms アプリケーション実行時のパフォーマンスの改善	10
Patch4 新機能	11
Forms Listener サブレットの導入	11
必要条件	11
Forms Listener サブレットについて	11
Forms Listener サブレットを使用する理由	12
より詳細な情報について	12
jserv.properties ファイルの修正	13
日本語環境での jserv.properties ファイルの修正	13
エラーメッセージの追加	13
エラー・メッセージ 13009-18010	13
その他の問題点	14
Oracle9i Database の NCHAR データ型	14
SJIS で作成された CLOB 型を含むモジュールを EUC で実行した場合の表示 ...	14
forms60.csh の修正	14
CLOB 型を扱う Form の実行後に発生する FRM-40655 エラー	14
キュー・カードの起動	14
クイック・ツアーの起動	15

第 3 章 Oracle Reports Developer and Oracle9iAS Reports Services R6i	16
対応するデータベース	16
確認されている問題点	16
Oracle9i Database の NCHAR データ型	16
SJIS で保存された RDF ファイルの実行	16
reports60.csh の編集	16
reports60.csh (reports60.sh) の修正	17
キュー・カードの起動	17
クイック・ツアーの起動	17
第 4 章 その他の追加情報	18
チャート・ウィザード	18
og.pll の使用	18
Windows 2000 への JInitiator のインストール	18

第 1 章 Oracle Developer for HP-UX R6i Patch7 の適用

パッチの適用に関して

このパッチを適用する場合には、あらかじめ Oracle Developer for HP-UX R6i、または Oracle Developer Server for HP-UX R6i、または Oracle9i Application Server Enterprise Edition R1.0.2 がインストールされている必要があります。

patch_install.sh スクリプトは\$ORACLE_HOME に既にインストールされている製品のみ適用されます。

パッチのアンインストールが必要な場合は patch_install.sh で作成されるバックアップファイル及び patch_deinstall.sh スクリプトを削除しないようにしてください。バックアップファイルは全て拡張子が.PRE_P7 になります。

パッチを適用する場合は、インストールされているすべてのコンポーネントにパッチを適用する必要があります。たとえば、Forms のみにパッチを適用し使用することはサポート対象外となります。

Forms か Reports の one-off パッチを適用する場合は、Patch7 をインストールした後に、それらのパッチを再適用する必要があります。

パッチは Zip 圧縮されています。Zip ファイルを解凍する Unzip ユーティリティが無い場合は、Info-ZIP の Web サイト(<http://www.info-zip.org/>)等を参照することで Unzip に関する情報を入手することができます。

HP-UX 上の OS パッチの要件

HP-UX 上で OS パッチ、PHSS_21959 または PHSS_22946 がインストールされている場合、Forms または Reports を実行すると、以下のエラーメッセージが表示され、プログラムが起動出来ない等の問題が発生する可能性があります。

```
ASSERTION FAILED STATUS = CLIPBOARDSUCCESS FILE UICL.C LINE 985
```

この問題は、HP-UX の Motif OS Patchset、PHSS_23823 で解決されています。PHSS_23823 以上の OS パッチをインストールの上、Oracle Developer をご使用下さい。

インストールされている OS パッチは、以下のコマンドで確認できます。

```
$ /usr/sbin/swlist -l fileset
```

CD の内容

CD のルートディレクトリには次のファイルがあります。

README_dev6i.p7

developer6i_p7.zip

README_dev6i.p7 は英語版 README ファイルです。

developer6i_p7.zip がパッチファイルです。

このパッチには、コンポーネントを以下のバージョンにアップグレードするためのモジュールが含まれています。

Forms	6.0.8.16.1
EWT	3.4.7
Reports	6.0.8.16.0
TK	6.0.8.16.0
Doc	6.0.8.11.14
d2pm	6.0.8.11.14 (release notes)
jdkav	1.1.8.14o
jinit	1.1.8.14o
ut	6.0.8.16.0
nn	6.0.8.16.0
zrc	6.0.8.16.0

インストールに関して

このパッチを Oracle9i Application Server 環境に適用する場合は、環境変数 ORACLE_HOME を <iAS_HOME>/6iserver に設定してください。また、<iAS_HOME>/6iserver/lib を環境変数 SHLIB_PATH の最初に、<iAS_HOME>/6iserver/bin を環境変数 PATH の最初に設定してください。

このパッチには、RDBMS 8.0.6.3.0 ライブラリが含まれており、パッチのインストールの一部として RDBMS 8.0.6.3.0 ライブラリのアップグレードが自動的に行われます。このアップグレードを正常に行うため、環境変数 ORACLE_HOME、DISPLAY 変数が適切に設定されているか確認し、patch_install.sh スクリプトがあるディレクトリをカレントディレクトリとしてから、スクリプトを実行してください。

既に RDBMS 8.0.6.3.0 ライブラリがインストールされている場合、通常はインストールスクリプトが自動的にそれを検出しますが、インストールスクリプトを複数回実行すると以下のダイアログが表示されることがあります。(初回は発生しません。)

「You have answered 'No' to installing patchset for RDBMS, returning to the Asset Manager Screen.」

ここで「Yes」を選択すると RDBMS ライブラリのインストールが終了して、インストール・スクリプトの次の段階に進む事ができます。

注意: Oracle E-Business Suite 11i ユーザーは Oracle E-Business Suite 11i のドキュメントを参照して下さい。

1. 環境変数 ORACLE_HOME を設定します。
2. ファイル developer6i_patch7.zip を \$ORACLE_HOME にコピーします。
3. Unzip を用いてファイルを解凍します。
4. 解凍されたディレクトリの
developer6i_patch7/bin/genshlib
ファイルに実行パーミッションを与えてください。

```
chmod ug+x developer6i_patch7/bin/genshlib
```

5. パッチディレクトリに移動します。
6. インストールのためのシェルスクリプトを実行します。

```
./patch_install.sh
```

スクリプトの実行中、以下のエラーが出力される場合がありますが、問題ありません。無視してください。

```
genshlib: error: archive library not found:
```

```
$ORACLE_HOME/lib/libix.a
```

7. 環境変数 SHLIB_PATH に
\$ORACLE_HOME/network/jre11/lib/PA_RISC/native_threads
を追加します。

8. Relink します。

```
cd $ORACLE_HOME/procbuilder60/lib; make -f ins_procbuilder.mk  
install  
cd $ORACLE_HOME/forms60/lib; make -f ins_forms60w.mk install  
cd $ORACLE_HOME/reports60/lib; make -f ins_reports60w.mk install  
cd $ORACLE_HOME/graphics60/lib; make -f ins_graphics60w.mk install
```

Forms を Relink する際(make -if ins_forms60w.mk install)、以下のエラーが出力される場合がありますが、問題ありません。無視してください。

```
/usr/ccs/bin/ld: Found 39 duplicate symbol(s)
```

```
make: [f60webm] Error 1 (ignored)
```

アンインストール方法

1. 環境変数 ORACLE_HOME を設定します。
2. アンインストールのためのシェルスクリプトを実行します。

```
./patch_deinstall.sh
```

3. Relink します。

```
cd $ORACLE_HOME/procbuilder60/lib; make -f ins_procbuilder.mk  
install  
cd $ORACLE_HOME/forms60/lib; make -f ins_forms60w.mk install  
cd $ORACLE_HOME/reports60/lib; make -f ins_reports60w.mk install  
cd $ORACLE_HOME/graphics60/lib; make -f ins_graphics60w.mk install
```

このパッチで修正される不具合

修正される不具合の一覧は英語版の README を参照してください。

第 2 章 Oracle Forms Developer and Oracle9iAS Forms Services R6i

対応するデータベース

このパッチ（Oracle Developer R6i Patch7）を適用することで、Oracle Server リリース 7.3.4, 8.0.4, 8.0.5, 8.0.6, 8.1.5, 8.1.6 に加え、9.0.1 をサポートします。

Forms6i Patch7 新機能

Forms6i Patch7 では、次の機能が変更されました。これらの機能に対する詳細な資料が OTN-Japan から入手可能です。OTN-Japan の Web サイト(<http://otn.oracle.co.jp/>)をご参照下さい。

ユーザー/パスワードの非表示

ユーザーID が構成ファイル（formsweb.cfg）で指定された場合、Forms サブレット（または CGI）によって生成された HTML ページには、ユーザーID 値（パスワードを含む）は表示されません。

Forms6i Patch7 より前のバージョンでは、ユーザーID が構成ファイル（formsweb.cfg）で指定されている場合、Forms サブレット（または CGI）によって生成されたページには、ユーザーID 値（パスワードを含む）が HTML ソース内に含まれていました。これはセキュリティ上の問題となりえます。これに対する回避策は、ユーザーID やパスワードを指定せず、ユーザーID およびパスワードを入力するプロンプトを Forms に表示させることでした。

Patch7 では、ユーザーID パラメータ値は、Forms サブレットが Listener サブレットと共に使用された場合、Forms サブレットによって生成された HTML に含まれません。FormsCGI または固定 HTML ページを使用した場合、または Forms Listener を使用した場合、動作しません。

拡張されたシングル・サインオン（SSO）サポート

シングル・サインオン環境（Oracle Login Server を使用）内で実行中の Forms Service アプリケーションは、アンパサンド（&）によって区切られた名前値のペアで構成される、特殊なログオン・フォーマットを要求します。Patch 7 以前では、デフォルトでは、Forms ユーザーID フォーマットは formsweb.cfg ファイルを変更することによってのみ変更可能でした。

拡張シングル・サインオン・サポートを使用するには:

1. ログオン・マスクを次のようなフォーマットに変更します。


```
username=value&password=value&database=value
```

次のエントリを formsweb.cfg ファイルに指定します。

```
userid=%user%/%password%@%database%
```

これは個々の構成セクション内でも使用できます。

例:

```
[myapp_sso]
```

```
userid=%user%/%password%@%database%
```

注意: %間の名前（ユーザー、パスワードおよびデータベース）は、URL でその後使用されるものと一致するのであれば、変更可能です。

2. Logon Server 管理者ページに移動します。Oracle Portal からアクセス可能です。Forms アプリケーションを新規外部アプリケーションとして構成します。以下の指定を確認します。

- アプリケーションの起動に使用されている URL（たとえば、<http://myserver/servlet/f60servlet>）。
- ユーザー名およびパスワードの指定に使用されるログオン・パラメータのフィールド名。
- 予備ログオン・パラメータ（ユーザーに、または適切なデフォルト値で表示された）。例えば、構成パラメータおよびデータベース接続情報。データベース接続パラメータ名は formsweb.cfg ファイルに指定するものすべてです。

例えば、データベース接続パラメータに名前「Source」を定義するには、データベース接続パラメータを formsweb.cfg ファイル内に以下のように指定します。

```
userid=%name%/%password%@%Source%
```

- POST のような「認証に使用するタイプ」。これは、ログオン・パラメータが POST メソッドを使用して、URL パラメータとして Forms サーブレットに渡されたことを意味します。そのため、ユーザーはブラウザから見ることはできません。

Forms6i Patch6 新機能

Forms6i Patch6 では、次の機能が変更されました。

拡張されたネットワーク・リジリエンス

現状、Oracle Forms 6i Patch5 では、ネットワーク障害が数秒以上続いた場合、Oracle Forms セッションは失われ、次のエラー・メッセージが表示され、結果的にいくつかの保存されていない情報が失われます。

「FRM-92100: サーバーへの接続が中断されました。原因はネットワーク・エラーまたはサーバー障害の可能性があります。セッションを再度確立する必要があります。」

Patch6 では、(Bug#1762055 の修正に伴い) Listener サブレットを使用するとき、クライアントはサーバー (Oracle Forms ランタイム) からネットワーク障害を区別することができます。そして、ネットワーク障害の場合、ネットワーク接続の再確立を試みます。クライアントは、<networkRetries>パラメータに指定した回数分、再接続を試みます。そして、接続試行ごとに、以下のようなメッセージをステータス・バーの右側に表示します。

"2/30"

"2"は2回目の試行を意味し、"30"は<networkRetries>の値を表します。

クライアントが<networkRetries>パラメータで指定した回数分再試行してもサーバーと接続できなかった場合、Oracle Forms セッションは異常終了し、次のメッセージが表示されます。

「FRM-92102: ネットワーク・エラーが発生しました。Forms クライアントはサーバーと<数字>回の接続を試みましたが、成功しませんでした。ネットワーク接続を確認し、もう1度実行してください。」

サーバーに障害があった場合 (Forms ランタイム・プロセスが予想せず終了した場合や、誰かが終了させた場合)、Oracle Forms セッションは異常終了し、次のメッセージが表示されます。

「FRM-92101: サーバーでエラーが発生しました。セッションを再度確立する必要があります。」

拡張ネットワーク・レジリエンス機能の使用

base HTML ファイルを編集し、新規"networkRetries"アプレット・パラメータを追加する必要があります。その後、formsweb.cfg ファイルのデフォルト・セクションにこのパラメータを追加する必要があります。次のような行を追加します。

```
networkRetries=30
```

このステップを踏まえない場合、デフォルト値 0 が使用されます。この場合、ネットワーク障害が発生すると、クライアントは以前と同様の行動 (すなわち、接続を再確立しない) をとります。ネットワークの性質や要求に応じて設定を変更する場合は、formsweb.cfg ファイルを編集します。

Listener サブレットを使用した、HTTPS モード内での JInitiator の Forms アプリケーション実行時のパフォーマンスの改善

以前は、JInitiator の HTTPS 実装は HTTP の keep-alive オプションを使用していませんでした。現在は、keep-alive オプションは実装され (JInitiator 1.1.8.11 以降)、クライアントは、URL

要求ごとに再接続する必要がなくなりました。したがって、シン・クライアントがサーバーと接続するごとに SSL 接続をする必要はありません。

Patch4 新機能

次に説明する新機能は Forms 6i Patch4 でサポートされます。さらに詳しい情報は、ホワイト・ペーパー「Forms 6i Patch 4:Forms Listener サブレットによる Forms のインターネットへの配布」をご覧ください。なお、HP-UX プラットフォームでは Patch4 は Patch4a を指します。

Forms Listener サブレットの導入

Forms の以前のリリースでは、クライアントからの初期接続を管理するために Forms Listener を使用しています。Forms Listener では、インターネット上で Forms アプリケーションを HTTP または HTTPS 配置で使用する場合、Forms Listener を実行しているマシンとポートをファイアウォール上で公開する事に潜在的なセキュリティ・リスクが存在することに留意する必要がありました。

Forms 6i Patch4 では新しく Forms Listener の機能を改良した Forms Listener サブレットがあり、Forms アプリケーションをインターネット上に配置する場合、より安全な接続を提供します。Forms Listener サブレットはファイアウォールで公開されたマシン上で実行する必要がないためです。

注意：HTTP または HTTPS を用いてアプリケーションを配置する場合 Forms Listener サブレットを使用することをお勧めします。ただし、Forms Listener でも従来通り、直接のソケット接続、HTTP 接続および HTTPS 接続をサポートしています。

必要条件

Oracle9iAS R1.0.2 が必要です。

Forms Listener サブレットについて

Forms Listener サブレットは、Oracle9i Application Server のようなサブレット・エンジンを備えた Web サーバー上で実行される Java サブレットです。

Forms Listener サブレットが管理するもの：

- 各クライアントに対する Forms Server Runtime プロセスの作成
- クライアントと対応する Forms Server Runtime プロセス間のネットワーク通信

Forms Listener サーブレットを使用する理由

Forms Listener サーブレットはインターネット上に Forms アプリケーションをより強力に、より標準的に配置するために設計されています。Forms Listener と Forms Listener サーブレットを比較すると次のような利点があります。

- ファイアウォールとプロキシが広範囲にサポートされます。
クライアント・ブラウザは Web サーバーと通信します。このアーキテクチャはサーブレット・セッションを使用する標準的なサーブレットが動作可能なファイアウォールとプロキシをサポートします。
- プロトコルの制限(HTTP/1.1 または HTTP/1.0)がありません。
HTTP/1.1 に準拠しているプロキシを使用するとよりパフォーマンスが上がりますが、このアーキテクチャは HTTP/1.0 に準拠しているプロキシでも機能します。
- 管理するための余分なプロセスが不要です。
このアーキテクチャには Forms Listener プロセスおよび Forms Listener プロセスを起動、停止するための管理タスクが必要ありません。
- SSL 配置のために特別なクライアント証明書を購入・管理する必要はありません。
SSL(Secure Sockets Layer)を使用した配置を行う場合、クライアント・ブラウザと Web サーバーの間に HTTPS 接続が確立されるため、Forms Server レベルでの特別なセキュリティ構成は必要ありません。
- 標準的なロード・バランシングをサポートします。
このアーキテクチャでは、ハードウェアのロード・バランシング、リバース・プロキシおよび標準的な Apache Jserv ロード・バランシングのような標準的なロード・バランシング方法を使用できます。
- Internet Explorer 5.0 ネイティブ JVM をサポートします。
Oracle JInitiator に加えて、このアーキテクチャは HTTP および HTTPS 接続モードを使用したインターネット配置に対する Internet Explorer 5.0 ネイティブ Microsoft JVM の使用をサポートします。

より詳細な情報について

Forms Listener サーブレットの詳細な説明（インストール、構成に関する情報）についてはホワイト・ペーパー「Forms 6i Patch 4:Forms Listener サーブレットによる Forms のインターネットへの配布」を参照してください。Oracle Technology Network の Web サイト <http://otn.oracle.co.jp/> を参照してください。ホワイト・ペーパーは更新される場合があります。

jserv.properties ファイルの修正

HP-UX プラットフォームで Forms Listener サブレットを実行する場合は Oracle9iAS の Servlet 設定ファイル、<9iAS_HOME>/Apache/Jserv/etc/jserv.properties 内の該当するエントリを以下のように修正してください。

誤)

```
wrapper.classpath = <9iAS_HOME>/6iserver/forms60/java
```

正)

```
wrapper.classpath = <9iAS_HOME>/6iserver/forms60/java/f60srv.jar
```

日本語環境での jserv.properties ファイルの修正

Forms Listener サブレットを日本語環境で実行する場合は Oracle9iAS の Servlet 設定ファイル、<9iAS_HOME>/Apache/Jserv/etc/jserv.properties に、以下に示す日本語環境用の記述を追加します。

次の行を追加します。

```
wrapper.env=NLS_LANG=Japanese_Japan.JA16EUC
```

エラーメッセージの追加

エラー・メッセージ 13009-18010

FRM-13009: JavaBean が IView インタフェースをインプリメントしません。

原因: Forms でこの JavaBean を使用するためには、JavaBean により Oracle Forms IView インタフェースをインプリメントする必要があります。

処置: Oracle Forms の oracle.forms.ui.IView インタフェースをインプリメントします。

FRM-18010: JavaBean を処理しようとした時に、不明エラーが発生しました。

原因: Forms でこの JavaBean を使用するためには、指定した JavaBean を Forms で検索およびインスタンス化できなければなりません。

処置: 指定した JavaBean とそれに付随するクラス・ファイルが正しくインストールされていることを確認します。Form Builder を再起動してから、JavaBean を再実行します。

その他の問題点

Oracle9i Database の NCHAR データ型

Oracle9i データベースを接続先データベースとして使用した場合、NCHAR(NVARCHAR2)列からデータを取得する項目で、データが正しく表示されません。これは Oracle9i から NCHAR(NVARCHAR2)型の格納文字コードが Unicode に変更されたことに伴い、Net8 クライアントから Oracle9i の NCHAR データ型を取得する際に発生する現象と同一です。

SJIS で作成された CLOB 型を含むモジュールを EUC で実行した場合の表示

問題: JA16SJIS 環境下で作成された CLOB 型列を含む表にアクセスする Form モジュールを JA16EUC 環境下で実行すると、Form が表示されません。

対処: モジュールを JA16EUC 環境下で再コンパイルし、その後実行してください。

forms60.csh の修正

Forms の環境変数を設定する forms60.csh スクリプト内で、既存の SHLIB_PATH 変数が「上書き」されます。スクリプト内を以下のように書き換えることで、SHLIB_PATH 変数を「上書き」ではなく「追加」にできます。

例)

修正前

```
setenv SHLIB_PATH $ORACLE_HOME/lib:/usr/lib
```

修正後

```
setenv SHLIB_PATH $ORACLE_HOME/lib:/usr/lib:${SHLIB_PATH}
```

CLOB 型を扱う Form の実行後に発生する FRM-40655 エラー

問題: CLOB 型列にアクセスする Form モジュールを実行し、Forms Runtime を終了する際に「FRM-40655: SQL エラーのためロールバックされました: フォームを消去して、トランザクションを再入力してください」エラーが出力される場合があります。

対処: 現時点ではありません。将来のリリースで解決される予定です。

キュー・カードの起動

問題: JA16EUC 環境下ではキュー・カードが起動しません。

対処: キャラクター・セットを JA16SJIS に設定してキュー・カードを起動します。

クイック・ツアーの起動

問題: JA16EUC 環境下ではクイック・ツアーを起動すると「REP-0911:クイック・ツアーは見つかりません。クイック・ツアーを再インストールし、再試行してください。」エラーが出力される場合があります。

対処: ブラウザから以下のファイルを手動で開くことでクイック・ツアーを起動してください。

```
$ORACLE_HOME/doc60/admin/quicktuor/JA/d2q60.html
```

第 3 章 Oracle Reports Developer and Oracle9iAS Reports Services R6i

対応するデータベース

このパッチ（Oracle Developer R6i Patch7）を適用することで、Oracle Server リリース 7.3.4, 8.0.4, 8.0.5, 8.0.6, 8.1.5, 8.1.6 に加え、9.0.1 をサポートします。

確認されている問題点

Oracle9i Database の NCHAR データ型

Oracle9i データベースを接続先データベースとして使用した場合、NCHAR(NVARCHAR2)列からデータを取得する項目で、データが正しく表示されません。これは Oracle9i から NCHAR(NVARCHAR2)型の格納文字コードが Unicode に変更されたことに伴い、Net8 クライアントから Oracle9i の NCHAR データ型を取得する際に発生する現象と同一です。

SJIS で保存された RDF ファイルの実行

問題: SJIS の文字コードで作成された.rdf ファイルを実行する際、「REP-0495:内部エラー 問い合わせをトークン化できません」エラーが発生する場合があります。これはデータベースの表名や列名に日本語を使用しているスキーマにアクセスするモジュールを SJIS 文字コードで作成し、EUC 環境で実行した場合に発生します。

対処: EUC 環境で該当モジュールを開き、表名と列名を再設定してください。レポート・ウィザードを起動するとこの再設定を素早く行うことができます。

reports60.csh の編集

スクリプト、\$ORACLE_HOME/reports60.csh 内に構文エラーがあります。正しく動作させるために、このスクリプトに含まれる NLS_LANG 環境変数の設定を確認する IF 文を以下のように修正してください。

誤)

```
if [ "$NLS_LANG" = "" ]  
then
```

正)

```
if ( ! $?NLS_LANG ) then
```


reports60.csh (reports60.sh) の修正

問題: Reports の環境変数を設定する reports60.csh(B シェルにおいては reports60.sh)スクリプトにおいてテンプレートの格納されているディレクトリの指定が間違っています。

対処: スクリプトの REPORTS60_PATH の指定部分で
\$ORACLE_HOME/reports60/admin/templates を追加して指定します。

例)

reports60.csh の場合

```
setenv REPORTS60_PATH  
$ORACLE_HOME/reports60/admin/templates:$ORACLE_HOME/tools/devdem60/d  
emo/reports
```

reports60.sh の場合

```
REPORTS60_PATH=$ORACLE_HOME/reports60/admin/templates:$ORACLE_HOME/t  
ools/devdem60/demo/reports  
export REPORTS60_PATH
```

キュー・カードの起動

問題: JA16EUC 環境下ではキュー・カードが起動しません。

対処: キャラクター・セットを JA16SJIS に設定してキュー・カードを起動します。

クイック・ツアーの起動

問題: JA16EUC 環境下ではクイック・ツアーを起動すると「REP-0911:クイック・ツアーは見つかりません。クイック・ツアーを再インストールし、再試行してください。」エラーが出力される場合があります。

対処: ブラウザから以下のファイルを手動で開くことでクイック・ツアーを起動してください。

```
$ORACLE_HOME/doc60/admin/quicktuor/JA/rwq60.html
```

第 4 章 その他の追加情報

チャート・ウィザード

このリリースの Oracle Forms Developer、および Oracle Reports Developer ではチャートウィザードの使用はサポートされていません。

og.pll の使用

og.pll を使用して Forms に Graphics を埋め込む場合には、Oracle Developer R6i のインストール CD-ROM にある、

<CD-ROM>/extras/forms/graphics/og.pll

をコピーして使用して下さい。

Windows 2000 への JInitiator のインストール

Windows 2000 のグループは主に Administrators、Power Users、Users の三つがあります。JInitiator をインストールする際は、Administrators、または Power Users グループに属するユーザーで行う必要があります。